

# 病院環境にデザインを取り入れる価値

アフターコロナ時代の院内環境を考えると、医療DXがますます加速していく一方でガラスの仕切りや入院中の面会抑制など、患者さんと医療従事者との距離は遠くなりがちです。そんな中患者さんの孤独や不安を和らげる環境づくりはますます大切になります。

もともと病院（Hospital）はホテル（Hotel）と同じ語源を持ち、かつてはローマ巡礼の長旅に疲れた旅人を癒す宿でした。時代が変わっても病院は臓器のみを治すのではなく、患者さんの心を癒し生きる希望を与える場であることは変わりがないと思います。

また長時間を過ごす医療従事者にとっても環境は重要で、ストレスをため込む場ではなく働く意欲が増す場を整えていくのは経営側としても大切な役割だと思います。

デザイン=コストがかかると思われるかもしれませんが、しかしデザインは装飾ではなく、そこに誰も居なくても病院側の配慮を感じ取れる手段であり、様々な問題解決の手法でもあります。

今回は2021年4月にリニューアルオープンされた社会医療法人社団正峰会 神戸大山病院の事例を通して院内デザインのポイントをいくつかご紹介させていただきます。



病院らしくない病院を目指した外観

## 1 外観は理念を発するもの

外観は病院の理念を表現する場でもあります。病院だから白というのではなく、どのようなメッセージを地域に発信したいのかを考える事が大切です。

神戸大山病院の理念は「地域とともにあなたと生きる」です。プロジェクトに関わらせて頂いた際にはすでにモダンな外観設計が出来上がっていたので、色彩計画をさせて頂きました。壁の色が「ピンク？」と思われるかもしれませんがピンクではありません。フランスでは「葵」と言われるグレイッシュな紫の「モーヴ」という色です。そこに樹木のイメージの茶を加え、望まれている「病院らしくない病院」として地域に優しい存在となるようにデザインしました。

## 2 玄関は安心感を与える場

院内に入った瞬間に感じる事はなんでしょう。患者さんは前夜から緊張感いっぱい来院されます。できるだけ緊張を和らげる雰囲気づくりができれば、その後起こりうるイライラ感やクレームは激減します。風除室を無機質な空間でなくひと工夫でやさしく包んであげるような空間に変える事ができます。神戸大山病院では風除室を間接照明にし、正面の壁を家具とアートで演出しました。こうする事で場をリードする雰囲気づくりが出来て空間がまとまります。煩雑になりがちな車椅子や傘の居場所も風除室脇の小部屋に収納、直接見えない様にしました。病院に来たのを忘れるようなおもてなしの玄関になりました



おもてなしの風除室

## 3 待合室は心穏やかに待てる配慮を

厚生労働省が行った患者アンケート調査で病院への不満第1位は「待ち時間が長い」でした。その問題解決のひとつの手法として時間の感覚をコントロールする色彩心理を取り入れる方法があります。カリフォルニア大学のロバートジェラート教授の実験によると赤系の強い色は心拍・呼吸・血圧をアップさせ時間の経過を長く感じさせるのに対して、青系は時間の経過を短く感じさせる事が実証され、一番時間が短く感じられたのはベージュでした。またパステルの色彩は精神が穏やかになれ海外の刑務所では淡いピンクの壁にしている所もあります。このように色彩とバイタルサインの変化の特徴を考慮しながら空間を考えるのは効果的です。またアートはリラックス度を高めてくれるアイテムとして待合室に効果的です



待ち時間を感じさせない待合室

#### 4 病室に太陽の光を

4床室ではどうしても廊下側の患者さんのベッドサイドに光が届きにくくなります。

太陽の光は人間のサーカディアンリズム（体内時計）をコントロールしてくれる大切な要素です。往々にして終日をベッドの上で過ごす患者さんは時間の感覚が失われ、不眠傾向になり、夜間のナースコールが絶えない等の状況も起こりえます。廊下側の患者さんにも太陽の光を届ける方法としてカーテンレールを直線ではなく曲線にするのは効果的です。



光が届くカーテンレールの形

#### 5 トイレを行きたい場所にする

病院のトイレは殺風景になりがちです。特にユニバーサルトイレはスペースも広く、手すりや衛生陶器が並ぶので機械に囲まれているような雰囲気になります。患者さんにとって排泄は大切な治療の一環。殺風景なトイレでなく行きたいトイレにすることがリハビリになり自立支援につながります。殺風景さは壁紙選びだけでも解消されます。床から1m程度は拭きやすく掃除しやすい素材にする事は大切ですが、それより上はビニール壁紙で大丈夫です。今は抗菌、消臭、表面強化など病院に使いやすい壁紙が多々出ているので、色彩や柄を工夫して患者さんが行きたくなるトイレに。コストもさほど掛からずに出来る簡単な方法です。



壁紙で演出したユニバーサルトイレ

#### 6 スタッフスペースを美しく

医療スタッフにとって休憩時間に素早くリフレッシュできることは大切です。スタッフの居場所は舞台裏の暗く寂しい場所になりがちですが、少しの工夫で明るくすることができます。スタッフ食堂も画一的な家具でなく、いくつかの椅子を組み合わせたたり、アートを掛けることでリズムが生まれます。このようなちょっとした配慮は経営側のスタッフへの思いやりとして敏感に感じ取れるものです。スタッフスペースを美しく整った状態にすると心が整います。誇りを持って働ける環境は患者さんに対しておもてなしの心が芽生える場となります。神戸大山病院ではリニューアルオープン後、スタッフのモチベーションアップや地域の方からも好評を得ています。デザインは一時的なものではなく将来にわたり理念を形にし、スタッフの働く意欲をも助長してくれる大きな力となります。



椅子のデザインを変えたスタッフ食堂

戸倉さんはメドックスグループと提携し、塾生の神戸大山病院や隈病院のインテリア部門をご提案いただいております。女性職員だけのユニークなデザイン事務所として益々腕を振るって高い評価を受けております。 野口哲英



戸倉 蓉子

#### 【プロフィール】

株式会社ドムデザイン 代表取締役

慶応義塾大学病院にてナースとして勤務後、病院の環境を変えたいと建築デザイナーに転身。看護師と一級建築士の資格を持つ建築デザイナー

#### 【著書】

医療の場を整える環境デザイン（日本看護協会出版会）